

情勢報告

安芸ブロック研究会ナス部会（兼 安芸集出荷場ナス部会）



2月17日に安芸ブロック研究会ナス部会の現地検討会と、講演会が開催された。現地検討会では安芸市赤野・穴内・安芸地区それぞれ1ヶ所ずつ、計3ヶ所の土佐鷹の圃場を巡回した。圃場では、JAから耕種概要の説明と振興センターから生育状況についてのコメントを行い、その後生産者同士で生育状況やこれからの栽培管理、天敵の定着状況について、意見交換が行われた。

その後、高知大学の荒川教授より土着天敵「クロヒョウタンカスミカメ」について講演が行われ、質疑応答ではクロヒョウタンカスミカメの生態や他の天敵との関係などについて活発な質問がだされた。参加者は20名程度と予定していた人数より少なかったが、現地・講演とも多くの意見が出されるなど、濃密な会となった。

安芸集出荷場女性部勉強会



「ECがこの数値だと、判定は？」
「…良かった、健全土壌だ！」

1月29日、今園芸年度3回目の勉強会を開催した。「土壌と肥料の基礎」をテーマに、各人が持ち寄ったハウス土壌を使って、EC・硫酸根・塩素を測定する演習と講習、その後は現地視察を行った。さらに2月18日にも4回目の勉強会を開催し、篤農家のハウスで整枝の演習をさせてもらったり、樹づくり等について篤農家の考え方を聞いた。

どちらも10名が参加したが、通常の講習・現地視察だけでなく、演習も加えたことで理解度を増すのに有効であった。

3月にはナス以外の品目の圃場や有望品目であるアスパラガスの圃場、土着天敵を活用した圃場など、色々な圃場を皆で視察研修する予定である。

北川村くぶつけ集落営農組合が、兵庫県の先進地視察研修を行いました！！



視察風景（ふむふむ）

先月設立した「北川村くぶつけ集落営農組合」から、「何事も初めてで、先進地視察研修に行きたい」という声が出てきた。こうした集落の声を受け、組織運営方法、営農計画のたてかた等をテーマに、兵庫県の「入野営農組合」「株式会社ささ営農」の2事例について研修を行った。

入野営農組合は、女性が組合長を努め、今まで停滞気味であった活動を営農計画や話し合いを通じて活性化した事例について学んだ。また、「株式会社ささ営農」では、地元業者等との連携により計画的に生産を行っている事例を学んだ。

今回学んだ内容をもとに、「北川村くぶつけ集落営農組合」の活動の充実に繋がるよう支援をしていく。

地域園芸戦略推進会議作業部会（IPM 推進チーム）の開催



目標はもっと高くないとダメでは？などの意見が出された。

2月6日に IPM 技術の普及と定着に向けた生産者、園芸連、農協、振興センターからなる IPM 推進チーム会が立ち上がった。

内容は、IPM 技術を管内に波及させていくために、生産者、関係機関が環境保全型農業の推進に対して共通認識をもつための IPM 推進ビジョンを検討し作成した。

また、土着天敵を活用した防除体系の検討、生産履歴の記帳様式の検討や推進チームとしての活動目標などを協議し年間活動計画をたてた。

今後は、活動計画に盛り込まれた内容を着実に進めていくため、生産者や関係機関と今まで以上に連携し、安芸管内が環境保全型農業のトップリーダーとなるよう振興センターも支援をしていく。

ナス産地における有望品目の拡大（露地オクラ）



奈半利支所での講習会

ナスの補完品目として露地オクラの栽培が拡大している。講習会では、ドリフト対策として防風ネットや防壁作物の導入や、失敗の多い発芽までの管理を中心に説明した。講習会は営農との役割分担を決め、1カ所1時間をめどに計5か所で実施した。栽培技術を高めるためにもオクラ部会を作ろうという声もあり組織化へ動き出した。

ナスの自動選果機の導入もあって、面積拡大やより有利な早期トンネル栽培への移行拡大が見込まれる。また、JAの生産履歴記帳（2か月毎に提出）に露地オクラで取り組むことになった。

今後とも振興センターでは部会の組織化や栽培技術の向上等へ支援をしていく。

羽根支所ナス部会現地検討会の開催



天敵がここにおるで

2月23日、羽根支所管内で、営農指導員、振興センターの呼びかけでナス生産者を対象にした現地検討会を開催し20名が参加した。今回は土着天敵（タバコカスミカメ）を導入した農家5戸を巡回し、土着天敵の定着状況や導入した時の温度管理の方法及び整枝方法について討議を行った。初めて土着天敵を導入した生産者が多く、“天敵昆虫の発生程度はえいろうか？”など不安な声も聞かれたものの巡回した圃場では、ほとんど害虫の発生がみられず、ナスの品質も良かった。現在15戸の農家が土着天敵を導入し、その内11戸が上手く定着させている。

今後は土着天敵を導入していない生産者にも継続的に情報を提供し部会活動の活性化に繋げていく。

全員参加で目指そう 20 t どり～キュウリ部会現地検討会～



全員で意見交換

2月21日にJA室戸支所キュウリ部会は現地検討会を開催した。これまでは種苗会社の講師と圃場主との対話方式で管理アドバイスを受けていたが、今回はその対話の中に全員が「参加」するように心掛けた。

当日、出席者8戸全戸のハウスを巡回し、全員が樹の状態をチェックするなかで、「実が長いので温度を下げらどうか」、「果形が悪いので肥料を増やした方がいい」等の助言が講師だけでなく篤農家や各部会員から積極的に出ていた。

部会では20 t どりを目指しており、3月には中間実績（2月末で目標9 t）を検討し、管理ポイントのチェックを行って3月以降の「追い込み期」に備えて振興センターも支援をしていく。